

## 中級の読みクラス「中級から学ぶ日本語」9課

(2003年12月10日)

12月10日の公開授業研究会は「中級から学ぶ日本語」を用い、9課「使いましょう」の表現の導入、練習を行いました。中級Aの就学生10名(全て中国人:男3、女7)が参加しました。通常このクラスは20名のクラスですが、今回は授業研究会に参加してみたいという希望者10名で授業を行いました。

以下、どのように授業を進めていったか大まかな流れを書いていきたいと思います。

使いましょうA「せっかく」の導入、練習。ここでは5つの項目(1.せっかく~のに、2.せっかく~から、3.せっかくの~のに、4.せっかくの~から、5.せっかくですが)を練習しました。

1.「高校の時、私はバスケットボールをやっていました。大きい試合があったので、試合に勝つために毎日一生懸命練習しました。でも、私は試合の前に骨折してしまったんです。ですから、試合に…」積極的に発言してくれる学生が多かったので、私の発する一言一言に反応を示してくれ、「試合に出られませんでした。残念。」等と出だしからどんどん発言してくれました。そして、学生とやりとりをしながら「練習が大変だったから、本当に残念でした。せっかく練習したのに、骨折して試合に出られませんでした。」と1の表現を提示しました。そして、「みんなはテストでいい点が取りたいですね。みんなはテストの前日に夜中の3時まで勉強しました。でも、テストの日みんなは昼の12時半に起きました。」と次の話へ。学生達はすぐに「せっかく勉強したのに、寝坊してしまいました。」という文を作ることができました。「せっかく勉強したのに寝坊して試験に間に合いませんでした。」「せっかく勉強したのに寝坊して試験が受けられませんでした。」といった文も出してもらいました。その他、いくつか練習し、2を提示する話題に移りました。

2.「もうすぐクリスマスですね。中国の若い人達はクリスマスはどんなことをするんですか。」とクリスマスを話題にし、後で導入に使うため、クリスマス話で出てきたもの(恋人とデート、クリスマスケーキ、プレゼント)を板書しておきました。「私も大学の時、クリスマスに恋人にプレゼントをあげました。恋人のために自分でセーターを編みました。4カ月ぐらいかかりました。でも、せっかく編んであげたのに、恋人はあまり…」「せっかく編んであげたのに恋人はあまり着てくれませんでした。」等またいろいろな発言があり、「みんなだったらどうでしょう。みんなの為に恋人が一生懸命セーターを編んでくれました。あまり好きじゃなかったらどうする?」と質問してみました。「恋人の前でだけ着ます」等の答えが。「Aさんは優しいですから、恋人の苦勞を考えます。せっかく恋人が編んでくれたから、たくさん着ます。」とここで「せっかく~から」を提示しました。「Bさんは甘い物があまり好きじゃありません。でも、恋人がBさんのためにクリスマスケーキを作ってくれました。」「恋人がせっかく作ってくれたから、全部食べま「お

おいしいと言って食べます」わかったふうだったので、「クリスマスの日、恋人とデートなのでみんなはおしゃれをしました。でも、みんなの恋人は急に仕事が入ってしまいました。」と続け、「せっかくおしゃれをしたのに、デートが中止になってしまいました。」を出してもらい、それを受けて「おしゃれが勿体ないですね。せっかくおしゃれをしたから...。」と言うと「せっかくおしゃれをしたから、友達と遊びに行きました。」「写真を撮りました。」等が出てきました。

3, 4. 「みんなは休みは今、週に何回ありますか。休みは少ないですから、大切ですね。休みの日は何をしたい？」と質問をしたら、「遊びに行きたい、ゆっくり休みたい」等の答えが返ってきました。「私も休みはとても大切です。この間休みがありました。私はせっかくの休みだから、ゆっくりしたいと思っていました。でも、主人のお客さんが来てしまいました」「せっかくの休みなのに、お客さんが来てしまいました。」と二つの項目を対比しながら導入してみました。「Cさんは天気良かったら遊びに行きたいと思っていました。「せっかくの休みだから遊びに行きたいと思っていました。」「でも、せっかくの休みなのに...」「せっかくの休みなのに雨が降ってしまいました。」理解してくれたようなので、次の話に移りました。「私は父から1万円のワインをもらいました。1万円のワインを飲むチャンスはなかなかありませんよね。私は主人と約束しました。せっかくのワインだから、クリスマスに飲みましょう」「でも、私はせっかくのワインなのに...」「落としてしまいました」その他、クラスで旅行をするということにし、「せっかくの旅行だから、アルバイトや勉強のことは忘れて楽しみましょう」「せっかくの旅行なのに熱が出てしまいました」等、「のに」と「から」を対比しながら練習していきました。

5. 「先生がみんなを家に招待してくれました。でも、みんなは用事があって行けません。先生にどう言いますか。」「明日、うちへ遊びに来ませんか?」「せっかくですが、明日はアルバイトがありますので。」この表現は会話で既習だったので問題なく出てきました。

1~5の導入が終わり、テキストの練習問題に入りました。本当は一人一人自分で考えさせ、書かせてから答えさせるのがベストなのですが、時間短縮の為、全員で考えていき、口頭で答えを言ってもらいました。

使いましょうB「どうしても~うとしない」の導入、練習。

「私の弟は小さい時、人参が大嫌いでした。全然食べないので母は弟に人参を食べさせようと思いました。人参を小さく切ったり、いろいろな料理を作ったりしました。でも、弟の「食べない」という気持ちは強かったです。母がいくら食べなさいと言っても、弟はどうしても人参を食べようとしませんでした。」「人参ジュースも作りました。でも、弟はどうしても...。」「どうしても飲もうとしませんでした」と学生が反応。「そんな弟が小学生の時、友達とけんかをして帰ってきました。母はけんかの理由をききました。でも、何度きいても...。」「弟はどうしても理由を話そうとしませんでした」理解しているようだったので、自分のことでは言わないことを教え、意志形の形を覚えているか

確認し、またいくつか練習しました。「みんなの友達はたばこが大好きです。1日に60本も吸います。体に悪いですから、みんなは友達にたばこをやめるように言っています。医者もそう言っています。でも、友達は...」「たばこは体に悪いのに、友達はどうしてもやめようとしません。」「～のに、どうしても～うとしない」で文を作らせました。

テキストの練習問題の1. 娘は寝る時間になっても...「どうしても寝ようとしなない。」「どうしてもふとんに入ろうとしなない」また、どうして寝ようとしなないのかという質問をし、「どうしてもテレビを消そうとしなない」「どうしてもゲームをやめようとしなない」を出してもらいました。

使いましょうC「～たものだ」の導入、練習。過去によくしたことを懐かしむこの表現は20歳ぐらいの学生達を使うには相応しくないこともあると思ったので学生達が自分のことで作る文は「小さい頃は...」「子供の頃は...」に限りしました。練習問題は年配の人になったつもりで文を考えてもらいました。

(子供の頃の家族写真を見せながら)「この間、アルバムを整理していたら、昔の写真が出てきました。いろいろ思い出して懐かしくなりました。私は3人兄弟です。今はとても仲がいますが、子供の頃はよく兄弟げんかをしました。今思うととても懐かしいです。子供の頃はよく兄弟げんかをしたものです。」と提示。「父に叱られたことも今では懐かしいです。子供の頃はよく兄弟げんかをして父に叱られたものです。」「この写真は家族旅行の写真です。今はあまりしませんが、子供の頃は...。」「よく家族旅行をしたものです。」「よく家族であちこち行ったものです。」学生の一人が既習の「ものです」と混同しているようだったので、「道を歩いている時、知っている人に会ったら挨拶をするものです。(規範)」「友達の子供に久しぶりに会いました。随分大きくなったものですね。(感慨)」の文を示し一度整理しました。そして、小さい頃の遊びの話に移り、「小さい頃はよく木登りをしたものです。」等いろいろ出してもらいました。私の学生時代の話から、「大学時代はよく大学の講義をさぼって喫茶店へ行ったものです。」「夜はよく友達と飲みに行って騒いだものです。」を出し、ここでは日本人の方にも文を作って頂きました。「学生時代はいろいろなアルバイトをしたものです」といった文からアルバイトの話になり、少し脱線しました。

テキストの練習問題の1「今と違って、私の子供のころは...」は「今の子供達は家でテレビゲームばかりしているけど...」と言って「よく外で遊んだものです」を導きました。この1の文は自分一人のことだけでなく、自分が子供の頃、世の中の人はどうだったか、昔の社会はどうだったかを述べる文だとはっきり理解できていたかどうかが多少疑問です。「～なかったものです」と否定形を使おうとしていた学生もいましたが、「よくしたことで言おう」とその都度訂正しました。

短文作文 最後に今日習った文型を使って一人一人に短文作文をしてもらいました。日本人の方と話をしながら、文を作り、紙に書いてもらいました。書いてもらったものを提出してもらい、それをチェックしてみたところ、手伝って頂いたおかげだと思いますが、なかなか面白い文を書いている学生もいました。

## 授業後の感想

表現が使われる状況をはっきりさせようとする、つい教師側の説明が多くなってしまふところですが、今回は教師の一言一言に学生のほうからどんどん突っ込みを入れてくれ、楽しくやりとりをしながら進めることができました。希望者ということもあり、普段から積極的に発言してくれる学生が多かったのは確かですが、私自身も学生達の意欲的な姿勢に改めて感心してしまいました。見学者の方からも学生の反応の良さにお褒めの言葉を頂きました。今回の授業で気を付けていたことは長くできる文は短いままで終わらせないこと、また練習問題は一つの解答で終わらせず、いろいろ考えさせることでしたが、意欲的な学生達ばかりでしたので、その点はできていたように思います。

しかし、授業後に見学者の方に御感想を伺ったところ、「果たして今日の表現を全ての学生がちゃんと理解できたのかどうか疑問である」といった御意見がありました。今回錯覚し、理解していない学生がいるのに次の練習に移ってしまうということはありません。導入毎に一人一人に文を作らせて確認することができればいいのですが、大勢のクラスでは学生一人一人の理解度をチェックする時間がなく、最後の文作りで確認する形になってしまっています。普段の20名のクラスでは理解できていないと思われる学生は休み時間や次の日にもう一度考えさせたりしていますが、レベルにもかなり差が出てきてフォローしきれないのが現実です。いかにフォローしていくかが私自身の課題でもあります。今回速いテンポで授業を進めてしまいましたが、いつもの半分の人数で行っていたのだから、もう少し立ち止まってそれぞれの理解度を確認してもよかったのかもしれない。いろいろな御意見を参考に、また工夫してみたいと思います。

(佐々木真佐子)